

鉄道旅行研究部 活動報告

令和7年2月3日(月) 京浜急行電鉄 だいしせんえんせん たんさく 大師線沿線の探索

1. 目的

総文祭※¹の「鉄道研究発表会」や校内の鉄道展等で展示する写真を撮影する。定期的な写真撮影を通じて写真撮影技術の向上を目指します。

2. 旅程

表 簡易旅程表

10:00	川崎駅発車	
写真撮影	京急川崎駅付近	
	みなとちょう 港町駅付近	
	けいきゅうだいし 京急大師駅付近	
	ひがしもんぜん 東門前駅付近	昼食(うどん屋)
	こじましんでん 小島新田駅付近	
15:28	小島新田駅出発	
15:38	京急川崎駅到着	

3. 本文

川崎駅から小島新田駅までの約5Kmを歩きながら大師線沿線の撮影地を探索しました。

初めに京急川崎駅を出発してすぐのカーブで撮影しました。大師線の撮影のなかでも比較的名な場所^{はくりよく}で迫力のあるアウトカーブを撮影することが出来ました。



図 京急川崎駅のカーブ

次にカーブ先のストレート区間で撮影をしました。狭い道で車の往来に注意しながら撮影を行いました。



図 京急川崎駅付近のストレート

少し歩いて、第一京浜の高架下まで来ました。電車に乗っているとゆっくり運転になる場所です。ここは、電車を上から見下ろす撮影ができます。多摩川に沿って走る大師線ですが、車内から多摩川を見ることは難しいです。真横を走る区間がありますが高い^{へい}塀で見ないようです。



図 多摩川と京急

第一京浜を過ぎるとすぐに有名撮影地のS字カーブが見えます。しかし、運行計画の都合でこの付近の列車すれ違いが多いため撮影するタイミングが重要でした。

港町駅を超えてこれまた少し歩くと「川崎^{かわさき}河港水門^{かこうすいもん}」が見えます。この水門と列車と一緒に撮影できないか挑戦しました。

この水門は昭和3年3月に完成しました。浜川崎駅あたりまで^{うんが}運河をつなぐ計画の一部として活用される予定だったそうです。



図 水門と京急

京急大師駅まで歩いてきました。京急大師駅では、記念写真撮影と工場専用線跡の見学を行いました。食品加工工場へ貨物列車を運転していた名残の廃門や三線軌条跡を確認することが出来ました。駅前では京急さんの記念碑とマスコットキャラクター像が設置されていました。



図 記念写真

京急大師駅を過ぎたあたりで、インカーブ撮影ができる場所を発見しました。撮影を終えるころには昼食の時間になっていたため、近くに大型商業施設内で営業しているうどん屋さんで昼食をいただきました。昼食後は東門前駅の近くにある跨線橋で地下から出てくる列車や地下に入る列車を上から見下ろす構図で撮影しました。



図 インカーブの撮影

終点ひとつ前の大師橋駅では、地上運転だった時の名残を見学しました。首都高の構造物が列車の通行に支障がないように配慮されているのが確認できました。



図 大師橋駅の踏切跡

終点の小島新田駅に到着しました。小島新田駅付近で京急線とJR線をつなぐ連絡線跡や大師線の廃線跡を見学しました。駅前の陸橋を登ると川崎貨物駅を一望できました。丁度、神奈川臨海鉄道浮島線の貨物列車が入線してきました。その列車の入替作業を見学して後に大師線の列車に乗車して川崎駅まで戻りました。



図 神奈川臨海鉄道 入替列車

4. まとめ

列車に乗ると10分の区間ですが、新しい発見をしながら歩くと5時間掛かりました。大師線の豊かな沿線風景の中で列車をより良く撮影できる場所を知る事が出来ました。